

令和5年度レジリエント社会・地域共創シンポジウム開催のご挨拶

「地域と国の発展を支え、世界をリードする国立大学！！」



一般社団法人 国立大学協会
会長 永田 恭介(筑波大学長)

令和5年度レジリエント社会・地域共創シンポジウムの開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

国立大学は、平成16年度の法人化以来、優れた教育や特色ある研究を行うなど個性豊かで魅力ある大学になるよう各大学が工夫を凝らし、成果を上げてまいりました。また、国立大学は個々に、また総体として有する多様な学術知や、これまでの「知の資産」を結集し提供することで、SDGsの実現、グリーン・リカバリー、カーボンニュートラルの推進をはじめとして地球規模の課題を解決し、災害や感染症等に対応する高度にレジリエントで持続可能かつインクルーシブな社会の構築に貢献します。同時に、多様な地域社会の課題の解決を通して、その発展を支えています。加えて、我が国の研究推進と未来に向けた人材育成を基本的な使命とし、イノベーションの創出や知の継承を通じて、世界と伍する拠点として、また地域の中核としての役割を担います。

国立大学協会は、3.11東日本大震災を契機に、震災等の大規模災害による未曾有の危機を克服し日本の再生に貢献するため、平成23年度から「防災・日本再生シンポジウム」を開催してきました。開催から約10年が経過した令和4年度からは、大学を取り巻く現状や社会情勢が大きく変化していることを踏まえ、「レジリエント社会・地域共創シンポジウム」へと改称し、地域共創による防災・減災・防疫・復興に関する取り組みや、地域・キャンパスの脱炭素化や省エネの推進といった災害時のエネルギー確保にもつながる取り組み等、レジリエントな地域社会を実現していく活動について支援することといたしました。このような機会を通して、参加者の皆様からのご意見を受け止め、防災等を含めた地域貢献にかかわる国立大学の教育・研究の一層の発展に努めていくとともに、地域で防災等にかかわる活動をしておられる住民の方々、地域の自治体、政財界の方々とのより緊密な連携が強化されることを期待しております。

なお、当協会は平成22年度から、10月および11月の2か月間を「国立大学フェスタ」と銘打ち、各国立大学が地域と連携しながら実施するシンポジウム、オープンキャンパス、公開講座、市民講座などの様々な活動を集中的に皆様方に紹介しております。「レジリエント社会・地域共創シンポジウム」もこの「国立大学フェスタ」の一環です。こうした活動を展開することにより、国立大学の今を地域、社会、産業界等、広く国民の皆様にご理解いただけるよう努力してまいります。

最後に、本シンポジウムが、参加された皆様にとって意義あるものとなりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。